



「山椒は小粒でびりりと辛い」会社

「営業方法を模索中、現場監督からミニ会社案内を作って工事竣工後の自治会への挨拶時を持って行ってはどうかとの意見が出ました。もちろん即採用。気づきをアイデアとして出す、つねにそういう頭でいてほしい。社員のいい意見が実行される会社じゃないと伸びないと思うんで

す」と、山椒さんは生き生きと語る。

毎月、月初めの朝7時15分から全体会が開かれる。司会と記録は当番制。全員が係をもつていてその立場から発言する。「みんなの前に立つて大きな声を出すことは現場監督に必要なこと。作業員に的確に指示を出す訓練にもなります」

現場への直行直帰が多い職種だけに、みんなが顔を合わせる貴重な時間であ

る。先ほどのミニ会社案内は全体会のアイデア発掘隊から出たものだ。全員が港建設を背負っているという意識をもって常にアンテナを張っているのだという。品質保証と顧客満足の管理システムの国際基準であるISO9001…2000を社内3人で独自に構築し、認証取得したことも山椒さんが自負するところ。各部署の予防処置についても全体会で発表し、情報を共有している。目標を決め、具体的な行動に落とし込んで実践するのだ。小規模な会社ながら画期的な取り組みである。

リフレッシュ休暇の必要性

「教員をしていた時に育児休暇を途中で断念。でも後で気づいたことは、やっぱり家族が大事、子育てはその時期に私しかできないけれど、仕事は私なしでも回っていくということでした。教員時代、夏休みにはカナダやオーストラリアに娘と滞在し、それはゆったりした時間を過ごしました。リフレッシュできて、この先どんな事が待ち受けていてもまた1年間がんばれると思ったものです。この規模の建設会社は、ばたばたといそがしく、なかなか遊びで休暇は取りにくいけれど、一段落したら堂々と自分のリフレッシュのための時間をとれるようにしたい。いつも



思い思いの休みをクリエイト

ぴーんと張りつめていたらダメ。時に緩めることで引っぱる力が強くなる。仕事の力とかやる気が膨らんでくると思うんです」
 2003年にスタートしたりフレッシュ休暇は、有給以外に年間5日取得可能。1時間単位でとれるので、旅行に限らず、平日の子どもの授業参観でも音楽会に出かけるのでも自由に使えて便利である。

山際さんが社員にアンケートをとった結果、その狙い通り取得者はリフレッシュして

職場に戻っているという。

祭りに参加した2人がいる。いずれも祭りが盛んな土地柄の姫路在住。ひとりは入社1年目の若手で幼い頃から毎年太鼓をたたいていて、就職しても絶対参加したいと思っていた人だ。もうひとりは入社24年でこの制度を利用して毎年祭りの世話役を務めている。入社30年という人は夫婦で京都に行き古都散策を楽しんだ。「普段の忙しさ

を離れ、二人でゆったりとした時を共有できてよかった」と書いている。「子どもに合わせて夏休みにキャンプをしたり旅行に行くのを楽しみにしている」人もいる。

また、夫がポーランドに単身赴任しているという女性は、毎年お盆休みと合わせて2週間の休みをとってポーランドで夫婦一緒の時間を楽しんでいるそうだ。

一級建築士の山際さんはいえ、専門性を活かして、小中学校で防災・住教育の授業の講師を務めている。住まいの耐震と地震への備えを学ぶプログラムだ。

「牛乳パックを使って住まいの補強方法を考えさせるワークショップをしています。神戸市内外に広がってきています。子どもと接するのが大好きなので今後も続けたいです」

仕事を離れて、家族と過ごす、旅行をする、地域の中で好きなことに興じる。休みをクリエイトすることで「よし、また仕事をするぞ、という力が湧いてきた」という感想が寄せられている。取得率はおよそ3分の2。

今、地方の建設業界はあまり元気がない。しかし、山際さんは前向きだ。

「低迷しているときこそ伸び時。今まで通りは通用しない。できる限り仕事をとって効率よくスマートに仕事をこなす。会社の組織力を高め、みんなで力を合わせ



てがんばることが今後伸びていく原動力になると思います」

目が輝いているか、しんどそうではないか、つねに社員一人ひとりに目を向けている山際さん。責任と誇りをもった確かな仕事ができるような環境作りに余念がない。

★ 港建設 ★

本店 〒651-2263
兵庫県神戸市平野町
常本1-57
創立 1963(昭和38)年1月
従業員数 28人